

マレーシアとの『出会い』から考えよう ～みんなともだち マレーシア大さくせん～



Malaysia

湯本 すみれ

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：学活、生活科
- 時間数：9時間
- 対象：小学1年生
- 対象人数：26名

新潟県

新潟市立桜が丘小学校

〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・マレーシアの自然や文化、生活に触れることを通し、世界についての具体的なイメージをもちながら異文化に興味・関心をもって親しみ、文化の相違を尊重する素地をもつ。
- ・マレーシアの人々の思いに触れたり想像したりすることを通し、自分も世界の人々もかけがえのない存在であるということに気付く。
- ・友達と共に活動することを通し、人とのかかわりの中で生きている実感や出会いのすばらしさ、コミュニケーションの楽しさは、世界共通であることに気付く。
- ・学習・活動全体を通し、世界と交流する自分の姿をイメージしながら、その意欲や希望をもつ。

〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【あさがおカードをつくろう】 ・世界のことを学ぶ期待をもつ。 (生活科：7月、出発前に実施)	・あさがおカードが実際にマレーシアの人の手に渡ることを想像しながら、生活科で育てた朝顔の花を使って作る。	・朝顔の花 ・画用紙
2	【マレーシアのはがきからきづいたことをはなしあおう】 ・マレーシアという国に対して興味をもち、世界のことを学ぶ意欲をもつ。 (学活)	・絵葉書の写真別でグループをつくり、話し合いながら気付いたことを挙げる。 ・マレーシアの国旗やサバ州の旗を見て気付いたことを話し合い、どういふ国について活動していくのか今後の見通しをもつ。	・児童に送った絵葉書
3	【しりたい! マレーシアのこと】 ・興味・関心を、具体的な「知りたいこと」としてまとめ、今後の活動への意欲をもつ。 (学活)	・マレーシアについて具体的に「知りたいこと」を話し合い、全体で共有する。	・前時に使用した絵葉書と付箋紙
4	【マレーシアたんけん!】 ・「知りたいこと」をもとに、マレーシアの自然や文化、生活について知り、異文化に親しむ。	・マレーシアのあいさつを知り、あいさつにはどんな気持ちが込められているか話し合う。	・地図 ・児童に送った絵葉書
5	・マレーシアのお金や食べ物、自然を見て気付いたことを話し合う。	・マレーシアのお金や食べ物、自然を見て気付いたことを話し合う。	・紙幣と硬貨
6	・文化の相違に気付く。 (学活・生活科)	・マレーシアのファッション(布や服)や花を見て気付いたことを話し合う。	・写真 ・服や布
7	【「さくせんめい」をかんがえよう】 ・知ったことを生かし、これからどうしたいかという願いをもつ。(学活)	・今までの活動をもとに、これから「どうしたいか」という観点で話し合う。 ・「さくせんめい」(本題材名のこと)を決める。	・前時までの活動をまとめた模造紙
8	【「みんなともだち」についてかんがえよう】 ・自分たちも世界の人々も大切な存在であるということに気付き、交流への意欲や希望をもつ。 (学活)	・「あさがおカード」を、マレーシアの少年「ナサニエル君」が受け取ったことを知り、ナサニエル君の気持ちを考える。 ・エピソードを通し、「みんなともだち」の意味について感じたことや思ったことを話し合う。	・「あさがおカード」の複写 ・メッセージ動画 ・プレゼント ・写真

9	【どうすれば、ねがいはかなうのかな】 ・「ともだちになりたい」という願いを実現する方法を考える。 (学活)	・「ナサニエル君に会いたい」「ナサニエル君にお礼を言いたい」という願いを実現する方法を考える。 ※3学期に続きを実施する予定	・前時の資料 ・切手
常時活動	【世界の国の旗を集めよう!】 ・マレーシアだけでなく、他の国々にも興味をもつ。 【マレーシア語で元気にあいさつ!】 ・日常生活の中で異文化を取り入れることで、異文化に親しむ。	・係ごとに交代しながら、毎日好きな国旗を選んで画用紙に描き、紹介する。 「ありがとう」「どういたしまして」「おはよう」「こんにちは」「さようなら」などの、簡単なあいさつを日頃から使う。	・国旗を描く画用紙 ・国旗をつなげていくビニールテープ

〔3〕 授業の詳細

1 時限目：【あさがおカードをつくろう】

マレーシアの人に伝えたいことを言葉でカードに書き込む児童が多かった。ちょうど皆既日食を見たときだったので、「マレーシアでも見られたのかなあ。」と想像しながら絵を描き込む児童もいた。



あさがおカード 一例

2 時限目：【マレーシアのはがきからきづいたことをはなしあおう】

3 時限目：【しりたい! マレーシアのこと】

現地で研修中に、児童に絵葉書を送っていた。絵葉書は、マレーシア（特にサバ州）の写真が載っているものを何種類か用意した。また、マレーシア語のあいさつを書き込んだ。写真に写されているものに親しみをもちながら多くのことに気づき、興味・関心を広げている姿が見られた。

興味・関心を、「知りたいこと」として言語化させたことにより、活動への意欲の高まりと、自分の生活と重ね合わせている姿が見られた。

また、多くの児童が、自分たちの生活との違いや同じところに気づくことができた。自分の好きなものや身近なものと重ね合わせながら、異文化に親しむ姿が見られた。「マレーシアに行ってみたい!」「もっと知りたい!」と、世界と交流する期待感や希望を膨らませている姿も見られた。

2～6 時限目を通して思ったこと

(児童の作文より一部抜粋)

- ・あさがおってマレーシアにもあるんだね。
- ・わたしは、花が大すぎて、マレーシアの花は、ふしぎなはなもありました。
- ・マレーシアの人たちもおなじたべものだったおもった。
- ・マレーシアにすいかがあったのでびっくりしました。
- ・せんせいのゆびぐらいのパナナがあったりピーナッツやふしぎなたべものがあった。
- ・キナバル山って、富士山より大きいんだってさ。
- ・マレーシアにも、犬もねこもへびもいて、すごびっくりしました。
- ・おかねは、コインとおさつ、にほんとおなじようなかんじだった。
- ・マレーシアのことが、ちょっぴりわかったみたいにか

んじます。

・マレーシアのえいごをはやくおぼえて、マレーシアの人にあいいたいんだけど、なかなかできないからがんばるね。

7 時限目：【「さくせんめい」をかながえよう】

「知ること」から、「自分がしたいこと」に話し合いの観点を変容させた。世界と交流することに対し、「自分のこと」として希望をもたせるためである。

児童の「したいこと」

- マレーシアの人と一緒に勉強したい。
- マレーシアの人と一緒に遊びたい。
- マレー語や英語を教えてください。
- マレーシアに行きたい。
- 街を見てみたい。
- 日本語をマレーシアの人に教えたい。
- 「くじらぐも」のお勉強(国語で学習したこと)を教えたい。
- 歌を歌いたい。
- おうちの中を見てみたい。
- マレーシアでマレーシアの服を着てみたい。
- 日本の葉書を送って、友達になりたい。
- 日本の学校に来てもらいたい。
- マレーシアの人にも日本のことを知って欲しい。
- 世界中に、マレーシアや日本のことを広げたい。

8 時限目：【「みんなともだち」について かながえよう】公開授業

※ナサニエル君とは、ホームステイ先で出会った本学級の児童と同じ1年生の少年のことである。本時の前に、児童には、ナサニエル君の名前と顔だけ紹介していた。

〈授業の様子と児童の反応〉

※授業を記録したDVDより

児童(以下児)：あっ!まるちゃん先生だ!!(研修メンバーの丸山先生こと。授業公開を見に来て児童に話をしてくださった。なお、児童は、名前と顔は知っていたが、実際に会ったのは、このときが初めてだった。丸山先生の自己紹介を聞く。)

教師(以下教)：この前、「みんなともだちマレーシア大きせん」という名前を考えました。「みんなともだち」と聞いて、誰の顔が心に思い浮かぶかな。

児：(目をつぶって思い浮かべる。)思い浮かんだ!!

教：思い浮かんだ「ともだち」って、どういう人かな?

児：おもしろい人。やさしい人。大好きな人。悪そうな人。

教：いたずらをする悪そうな人のことかな。じゃあ、このいたずらをしそうなお化けたちは、だれでしょう?(生活科で作ったお面を被った集合写真を見せる。)

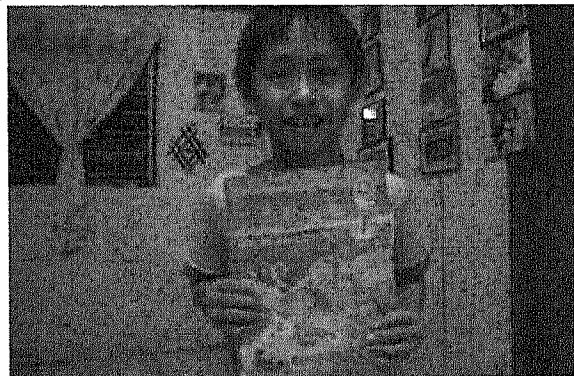
児：1年2組のみなんだ!

教：正体は・・・(1学期に朝顔の花壇の前で撮った集合写真)

児：わあ!!(大盛り上がり)

教：先生にも、友達があります。先生は、マレーシアで友達ができまして。今日は、先生の、マレーシアの友達についてお話します。

教：(プロジェクターと黒板で写真を見せながら進めていく。)ナサニエル君は、何年生だと思う?この教科書には、「1年級」って書いてあります。



児：同じ1年生なんだ!

教：(リビングの写真を見せる)



児：赤ちゃんのときの写真が貼ってあるよ。結婚式の写真は、お父さんとお母さんだ。

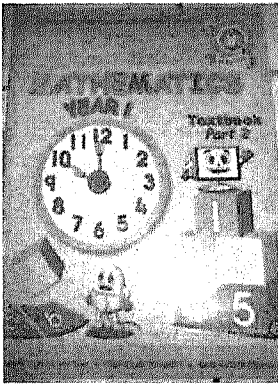
教：幼稚園のときの写真もありますよ。

児：本当だ!リュックサックだ。学校の準備をしているんだ!筆箱だ!ここは台所なの?

教：台所じゃなくて、寝転がったり、テレビを見たりするところだよ。

児：痛くないのかな。

教：冷たくて気持ちよかったですよ。



児：算数の教科書かな。塗り絵だ！わぁ！！「花」っていう漢字がある！「犬」もある！！

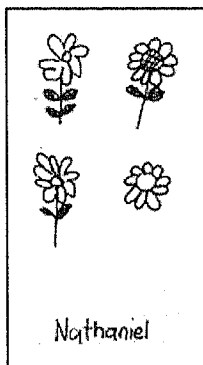
教：ナサニエル君は、マレー語と中国語と英語を習っています。

児：家族の絵だ。私も絵が好きだよ。

教：ナサニエル君は、絵が好きなんだそうです。先生は、最初、ナサニエル君と仲良くなるために、ナサニエル君に頼んだことがあります。どんなことだと思いますか。

児：絵を描いてもらったの？

教：そうです。ナサニエル君が最初にかいてくれた絵とサインを見せます。



児：わあ。すごい。(身を乗り出す)

教：家族のみんなと、市場に連れて行ってもらったり、おいしいご飯を一緒に食べたりしました。

児：先生、ランドセルってあるの？

教：ランドセルではなくて、さっきのリュックをしょって学校に行くそうです。

教：ナサニエル君の好きな食べ物は何でしょう？市場にもいて、ナサニエル君は大喜びでした。ヒントは、このクラスにも、その博士がいます。

児：あっ！魚だ！！R君は魚博士だもん！

教：これから、みんなにあるものを渡します。目をつぶってね。(あさがおカードのカラーコピーをラミネートしたものを配付する。)目を開けていいよ。

児：わぁ！！あさがおだ！！(自分のものや友達のものを読んだり見たりする。)

教：これは、あさがおカードのコピーです。本物は、誰に渡したと思う？

児：ナサニエル君に渡したんだ！



教：(渡したときの写真を見せる) そのとき、なんと、マレーシアの虫が家の中に遊びにやってきました。

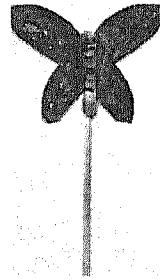
教：みんなのあさがおカードをもらったナサニエル君は、どんなことを思ったのかな。

ナサニエル君からのメッセージが届いています。日本語ではないけれど、心の耳で聞いてみてください。(メッセージ動画を見せる。)

児：ありがとうって言った。

教：ナサニエル君は、「日本のみんなにプレゼントして。」と言って、一番大事な蝶々の工作を先生に渡しました。(全員に持たせる。)

児：(じっと見つめ、笑顔になる。大切に扱う。)



教：ナサニエル君は、どんな気持ちで蝶々をプレゼントしたのかな。(ワークシート)

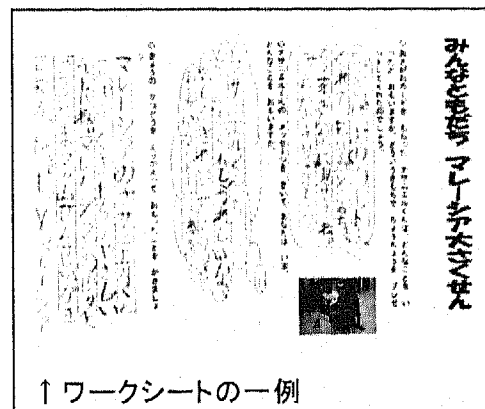
児：ありがとうの気持ち。

児：蝶々をみんなに見せてね。

児：みんな、ありがとう。

教：「みんな」って、誰のこと？

児：1年2組のみんなのこと。



教：では、ナサニエル君から蝶々をもらって、今どんなことを思っていますか。(ワークシート)

児：あさがおカードをあげられて嬉しかった。

児：ありがとう。

児：トッリマカシ!

児：ナサニエル君って、優しいんだね。

教：せっかくだけど、終わりの時間が来そうです。

児：えー。もっとやりたい。次の時間もやろうよ。

教：最後に、まだ見せていなかったものを見せるね。これは何だろう?

児：数字が書いてある。

児：住所?

教：そうです。ナサニエル君は、先生に住所と電話番号を書いて渡してくれました。先生は、ナサニエル君と、ナサニエル君のお父さんとお母さんに会えて、とても嬉しかったです。

教：最後に一つ!

「みんなともだち」の、「みんな」って、1年2組の「みんな」だけだったのかな?

児：世界中!

児：1年3組も!1年1組も!

児：いとこも!

児：お父さんとお母さん。

児：1年生も2年生も3年生も4年生も5年生も6年生も中学生も高校生も大学生も大人も……

教：とにかく?

児：世界中!!

教：国旗を見よう。みんなとナサニエル君みたいに、世界に1年生の子って、どのくらいいるのかな。

児：163人!1000人!無限!!

教：先生みたいな、先生をやっている人も、きつっているよね。

児：リビアにもいるよ。

児：ポーランド! 児：オランダにも! 児：大韓民国も!

教：世界中にお友達がいるんですね。まだ会ったことのない人とも友達になれるかもしれませんね。

児：これで、3時間目のお勉強を終わります。ありがとうございました。「トッリマカシ!!」

児童は、ナサニエル君への思い、目の前にいる友達への思い、まだ会ったことのない(これから会えるかもしれない)世界中の人への思いなど、それぞれに希望を膨らませることができた。

ワークシートから一部抜粋

- あさがおのえを、ナサニエルくんは、見てビックリしたかな。みんなでナサニエルくんに、ビックリするものをつくってあげたい。
- ナサニエルくんは、マレーシアごと、ちゅうごくごと、えいごをおべんきょうしてるって、ビックリ。
- もっとおべんきょうをして、ナサニエルくんといっしょにしゃべりたい。
- ナサニエルくんのおかあさんって、やさしそうなおかあさんだね。
- ナサニエルくんと、ともだちになりたい。いっぱいマレーシアの人となかよくなりたいたいです。
- あさがおカードをよろこんでくれたかな。
- マレーシアにいったもたちつくれたらいいなあ。
- ナサニエルくんのことばをきけてよかった。
- おとなになったら、マレーシアにいきたい。
- ナサニエルくんのみもちがわかって、うれしかった。マレーシアでげんきにくらしてほしいです。ぼくがくれたあさがおカード大じにしてね。ちょうちょうのプレゼントをありがとうね。

〔4〕授業実践を終えて

私は、授業実践を児童と一緒に心から楽しむことができた。マレーシアに行く前の私は、もしかしたら、児童と共に学ぶことを、心の底からは楽しんでいなかったのかもしれない。子どものつづやきに気付かず、豊かな発想に振り向かず、自分の思いだけを押し付けてしまっていたのかもしれない。

私は、この授業実践において、自らの教師としての在り方を見直すことができた。今までの自分とは違い、「伝えたい」思いはもちながら、児童の心や思いに正対して共に実感していくことができたのは、なぜだったのか。そのことを考えたとき、心に浮かんだのは、マレーシアで出会った人々の笑顔や圧倒的な大自然、研修メンバーの心に響く言葉だった。「出会い」によって、多くのことを学んだ。たくさんの方に話を聞き、ひたむきに考えた。そのことが、私を変えたのかもしれない。

私の国際理解教育は、これで終わりではなく、まだ始まったばかりだ。これからも子どもと共に、実践を積み重ねていきたい。

活動全体のポイントとふりかえり

「出会って、すばらしい」。現地での研修を終え、鮮明に実感したことだった。私は、この思いを根幹にしなが、児童が「誰か（何か）に出会いたい」と希望を膨らませることのできる授業を目指した。具体的には、以下の2点をポイントとした。

1点目は、「実感をともなった興味・関心」である。授業を通し、世界を「実感」することで「自分のこととして世界とかかわる」姿勢を育むことを目指した。そのために、物や写真を教材にする場合、「実物」や「実話」を重視して、本物に触らせ、エピソードのある写真を活用した。物や写真の背景や真実性を感じ取らせることが、「実感」につながると考えたからである。児童は、「実物」と「実話」に触れ

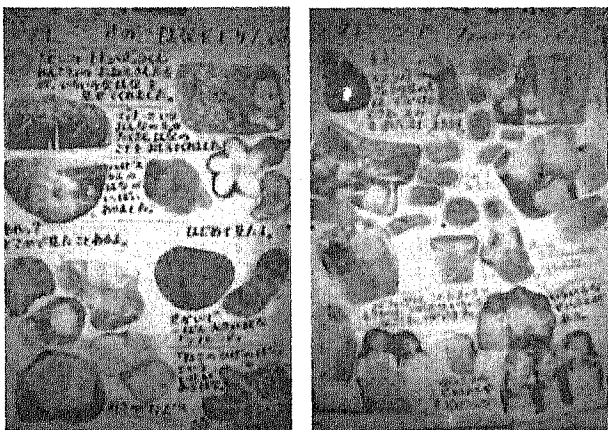
ることで、「実感をともなった興味・関心」を高め、世界と交流することに希望を膨らませることができた。

2点目は、「かかわり」である。目の前の友達も、これから出会う友達も、世界中の人も、みんな同じ人間として大切な存在であるということを実感させたかった。そのために、活動全体に気づきを話し合う場面を取り入れ、児童が思いを共有できるようにしたことで、児童はマレーシアや世界のことに関心や愛着をもつようになっていった。また、世界の国々に対する親しみにも通じていった。特に、8時限目の「ナサニエル君」についての活動終盤では、想像を世界に広げながら「みんな大切な友達だ」という思いを共有することができた。

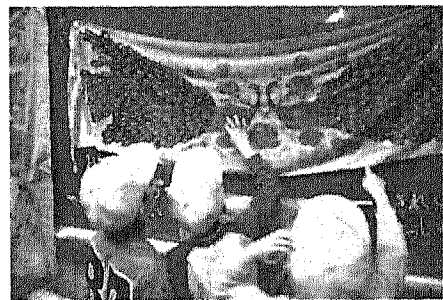
〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『旅の指さし会話帳 マレーシア』 戸加里康子 情報センター出版局 2001
- 『世界の子どもたちは いま 第Ⅱ期 全8巻⑨ マレーシアの子どもたち』 西村佐二、安西剛 学習研究社 2001
- 『世界のくにぐにと国旗がわかる絵本』 平凡社 1992
- 『世界のお金辞典』 汐文社 2006
- 『平成19年度 教師海外研修 授業実践報告集』 JICA 地球ひろば 2008
- 『平成20年度 教師海外研修 授業実践報告集』 JICA 地球ひろば 2009

〔6〕使用教材



写真と気づきをまとめた模造紙



実際に布に触る



現地のファッション雑誌

知らないなんてもったいない



Malaysia

戸澤 篤子

群馬県

富岡市立一ノ宮小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：学活、道徳、音楽、朝の会
- 時間数：6時間
- 対象：小学2年生
- 対象人数：25名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・マレーシアと日本のつながりを実感し、外国を身近に感じ、世界の国々への関心を高める。
- ・国を超えた人との出会いを知ることを通して、出会いを大切にしようとする気持ちをもつ。
- ・マレーシアへの知識が増えたことを実感することで、「知ろう」とする心を育てる。

〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	【マレーシアには不思議がいっぱい】 マレーシアへの関心をもつ。 (学活、朝の会)	・マレーシアからはがきから、仲間分けをして、おもしろいものを見つける。 ・いくつかはがきを取り上げ、生き物や生活の様子を想像して話し合い、マレーシアという国を知る。	児童に送ったはがき 絵本
3	【世界のことばで歌ってみよう】 「みんなで1・2・3」をマレーシア語で歌うことで、いろいろな国のことばに関心をもつ。 (音楽)	・マレーシア語だけでなく、国旗カードを用意して選ぶことでいろいろなことばで楽しく歌う。	音の出るこま 電車の切符 トゥドゥン(スカーフ) マレーシアの写真
4	【出会ってすてき】 人との出会いのすばらしさに気付く、出会いを大切にしようという気持ちをもつ。 (道徳)	・「マレーシアBOX」を用意して、マレーシアを身近に感じる。 ・ホームステイで出会った家族の話を聞き、そこでの温かな思いにふれる。	国旗カード
5	【みんなつながっているね】 マレーシアとの物のつながり、人としての願いの共通点を理解する。 (道徳)	・身近なものの中にもマレーシアがかくれていることを知る。 ・パーム農園のアワンさんの生活やどんなことに幸せを感じているかを知る。	パームオイルを使ったもの 地球儀 パーム農園の写真
6	【知らないなんてもったいない】 マレーシアについて分かったことを思い起こし、知ろうとすることの大切さに気付く。 (学活)	・マレーシアについては、分かったことがたくさんあるが、世界には、あるいは身近なところでも知らないことがたくさんあるということに気付く。	マレーシアの写真 日本の写真

〔3〕授業の詳細

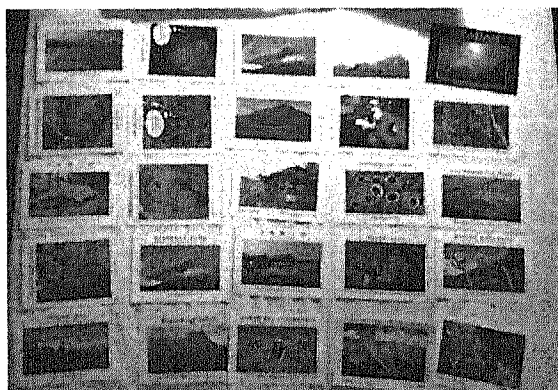
1、2時限目：

【マレーシアには不思議がいっぱい】

マレーシアから送った写真付きはがきを児童にもって来るように伝えた。25枚すべて違うはがきを送っていたので、朝の教室で児童たちははがきを見せ合い楽しんでた。

授業の初めに、「世界がわかる ちずのえほん」を見せ、夏休みにマレーシアという国に行った来たことを伝えた。マレーシアという国の名前自体、初めて聞いたという児童がほとんどで、地図を面白そうに見ていた。

次に、はがきを黒板に貼るように伝えた。貼り終えたところで、マレーシアはどんな国が話し合った。児童は、「猿がいる国」「大きな山がある（妙義山みたい）」「野菜が外で売っている」など、写真を見ながら、自分が気付いたことを積極的に発言していた。



(はがきの写真の内容)

市場の様子、ツインタワー、ウツボカズラ、ラフレシア、モスク、キナバル山、テングザル、オランウータンなど (全25種)

最後に、このはがきの中で、詳しく知りたいことはあるか尋ねたところ、たくさんの児童が手を挙げた。1時間では、児童の興味に応える十分な時間が取れなかった。そこで、朝の会や帰りの会で「ちょっとマレーシア」の時間を作り、話をした。

はがきには、マレーシアを代表する建物や植物、動物など、低学年の児童にとっても分かりやすいものばかりなので、マレーシアへの関心を高めることができた。

3時限目：【世界のことで歌ってみよう】

1学期に学習した「みんなで1・2・3」という歌を歌った。いろいろな国の言葉で数字の部分で歌ってみようという曲である。マレーシア語で「サトゥ・ドゥア・ティガ (1・2・3の意味)」と歌い、言葉の響きとともに歌を楽しむことができた。国旗カードを使って、いろいろな国の言葉で歌うことができた。簡単な数字ではあるが、児童にとっては新たな発見であり、世界の言葉に関心をもつきっかけとなった。

4時限目：【出会ってすてき】

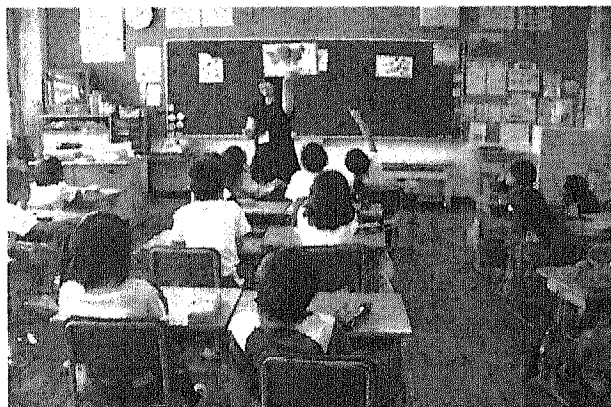
導入でマレーシアへの興味を持たせるために「マレーシアBOX」を用意した。他の授業でも使っている児童になじみの深い「たからものBOX」に、マレーシアで見つけたものを入れて行った。

マレーシアBOXに入れたもの

ボルネオ島の鳴り独楽、電車のチケット、トゥドゥン(スカーフ)

一つずつ取り出して、どんなものなのか尋ねた。日本にも独楽や電車のチケットはあるが、形や大きさの違いや使い方の違いについて知り、興味をもつことができた。また、トゥドゥンは、どうやって使うか実際に児童にやらせられ、男の子は使わないということを知ると、さっきまで被っていた男の子も照れながらも嬉しそうにしていた。低学年ということもあり、宗教的なことには軽く触れるだけで、男女で身につけるものが違うこともあるという程度にとどめた。

(4時限目の学習の様子)





マレーシアへの文化に親しんだところで、どうしても見せたい宝物があると児童に伝えた。ホームステイ先の家族の写真を見せ、この家族と過ごした時に、心のコもったもてなしと笑顔をもらって嬉しかったことを話した。自分自身、思い出して込み上げてくるものがあり、児童の中には共感したのか、涙ぐんでいる子もいた。

教師の体験談を通して、人の温かさや、ことばや国の違いは関係ないということを感じることができたと考える。



ホストファミリー



私のために探してきてくれた
ドリアン

5時限目：【みんなつながっているね】

導入では、パーム油が使われている手作り石鹸やスナック菓子の袋を見せて同じものが入っているということを伝えた。児童にはなじみのないパーム油であったので、答えは出なかった。正解を伝えると、石鹸の中に油が使われていることに驚いていた。

次に、パーム油はマレーシアでたくさん作っているということを知らせ、パーム農園を営むマレーシア人の写真と作業の様子ビデオを見せた。ドスン

と勢いよく落ちるパームの大きな実には、児童はとても驚いていた。遠い国であるマレーシアのものが、自分たちの生活のすぐ近くにあることを実感することができた。また、パーム農園を営む方の願いが、「家族のみんなと自分が幸せに暮らせること」と言っていたと伝えると、「僕もお父さんやお母さんが大事」「同じだね」などの反応があった。

この授業を通して、マレーシアと日本の距離が縮まり、人としての願いはみな同じであることに気付くことができた。



パーム農園の様子



6時限目：【知らないなんてもったいない】

これまでで、マレーシアについてどんなことが分かったか話し合った。

話し合いで出たこと

- いろいろな生き物がいる
- 海がいっぱいある
- やさしい人がいる
- 遠い
- お菓子の中に（マレーシアの）油が入っている
- おもしろい楽器
- 土地が2つに分かれている
- 一年中あたたかい など

似たような意見でも、出てきたものを全て板書していった。（出た意見は、30くらい）その後で、1学期の頃の自分は、このうちいくつのことを知っていたかを数えさせた。多い子は3つで、ほとんどの子は1つか、0であった。

学校で教師の話を聞くだけでなく、マレーシアについて家の人と調べていた児童のことを取り上げ、そうした知ろうという気持ちが大切であるというこ

とを話した。

世界に目を向けることや自分の身近なところにも、知らないことがたくさんあるかもしれないという、わくわくした気持ちをもたせることができた。

〔4〕授業実践を終えて

低学年の児童にとって、世界はやはり遠い。一時間一時間、児童にとって興味をもてる具体物や画像を用意することが大切であると感じた。そこに、自分の身近な人（今回は教師である私）の体験談が入ると、児童は、自分が体験したことのように想像の中で旅をしているようであった。

その国の深いところまでは理解できなくとも、世界にはいろいろな国々があり、日本とは違った物や食べ物があり、すぐ隣に広い世界があることを知るきっかけとなったことは大きな成果であった。

また、授業を重ねていくことを通して、児童たちは動物の本を見て、どこの国に住んでいるとか、授業で使用した「世界がわかる ちずのえほん」を読んで、他の国についても分かったことなどを知らせに来てくれている。知る喜びを感じているようである。

課題としては、発達段階に応じたテーマの設定と教材選びを研究したいということである。高学年であれば、青年海外協力隊の方々の活動を知ることを通して、自分の生き方や何が自分にできるかなど、深く考えることができると思う。今年度の経験を生かして、今後の教師生活で国際理解教育の発展に努めたいと思う。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『世界がわかる ちずのえほん』 ふゆのいちこ 学研 2008